

高知工科大学入学式告辞

おめでとうございます。

名物の桜も満開となって皆さんを迎えています。また、ご臨席いただいたご家族の皆様に対しましても、心からお祝い申し上げます。

私たちは「人の育つ大学」を目指しています。この「人」の中心はあなた方学生であることはもちろんですが、教職員もその中に含まれています。これらすべての「人」が常に成長を続けていける環境とすることが大学の使命であると私たちは考えて、努力を続けています。

人の育つ教育は私たち教職員とあなた方学生との共同作業となります。責任の半分は私たちに、残りの半分はあなた方にあります。私たちは全力をあげてあなた方が育つ支援をします。あなた方は今日この日を期して自らを成長させる決意を新たにしようお願いします。

この大学では高校時代までとは違って、大きな自由が学生に与えられています。例えば、必須科目が一つもありません。どの科目を履修するかは、すべてあなた方の選択に任されています。

当然のことながら、自由には責任が伴います。自己の責任において、何を学び、何を身に付けていくかを決める必要があります。それぞれが自分の特徴を考え、正しい知識を習得し、技術を使う能力を養い、そして自らの長所を伸ばしていかなければなりません。

工学系の大学では「修士課程」に進学することが一般的となっております。本学は「博士課程」の充実に力を入れています。今回新たに入学された方々を加えて、大学院生は修士課程二百七十二名、博士課程一〇八名となりました。二〇〇八名の学部生に比べると十分な数とはいえませんが、私立大学としては極めて高い比率となっております。

大学院では、専門性をより一層高め、物事の真実を見抜く力と困難を乗り越えて実行する行動力とを身につけることができます。

人間性の豊かさは人間としての基本条件であるといえます。工学系の大学ではともすると不足がちになる芸術や文学、あるいは社会科学の分野は、一流の方々に講義をしていただいています。本物の文化に接することは、豊かな人生を送るためにきわめて大切なことです。

人生のこの時期にクラブ活動や社会奉仕に携わることとは人間としての修行にはきわめて有効であり、明るく楽しい学生生活を送ることは、その後の人生にとって意味の深いことになると思います。

世界にはそれぞれ異なった歴史・文化をもった多くの国々が存在しています。それぞれの国で常識も異なっています。そして、世界は日一日と狭く小さくな

っています。そのような時代に生きていくには、自分と異なった価値観を認め、お互いを尊重するとともに、しっかりとした自己を確立していることが重要です。すなわち、相手を理解し、かつ自分を主張していかなければなりません。大学は異なった価値観を持つ人に対して寛容で、多様性こそがその発展に必要な、人と異なることが誇りとなる世界なのです。

大学はまさに多様な人との出会いの場であるといえます。人生の師や生涯の友との出会いがあるはずです。そして、このキャンパスは大学が出会いの場・コミュニケーションの場であることを十分に意識して造られています。コミュニケーションは己を知り、相手を知ることによって初めて成り立つものです。ここで培われるコミュニケーション能力は一生の宝になるはずです。そのためにも自己の確立が必要となります。

この後、先輩の学生たちがあなた方に話をしますが、あなた方の数年後の姿をそこに見ることができません。自ら学ぶ姿勢さえあれば、これからの数年間であなた方は見違えるように成長し、卒業するときに、この大学の一員であることに誇りと感動を覚えることでしょう。

私たちは、「この大学を世界一流の大学にする」という大きな夢に挑戦し続けています。夢を持ってば苦しいことにも耐えることができます。不可能と思えることに挑戦することは若者の特権です。あなた方ひとりひとりがそれぞれの夢に向かって今日から挑戦していくことを期待して、私の話を終えます。

平成十九年四月五日

高知工科大学 学長 岡村 甫